

蒲生干潟の植物④3

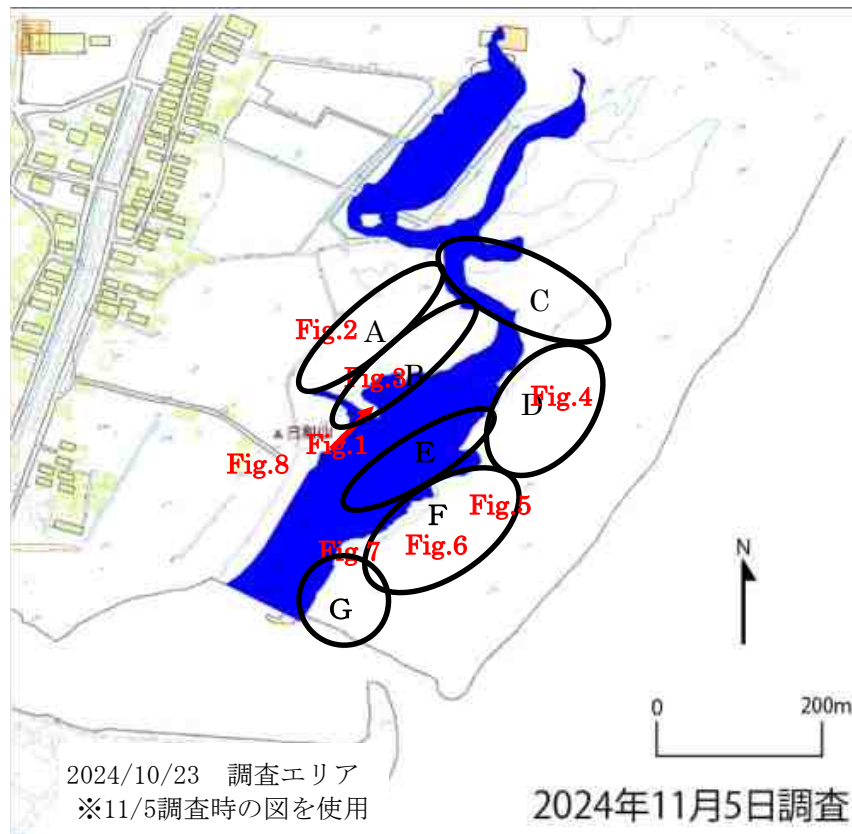


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアBで撮影

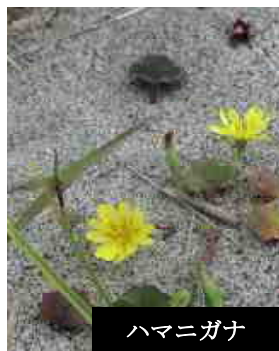


Fig.4 エリアDで撮影



Fig.5 エリアFで撮影

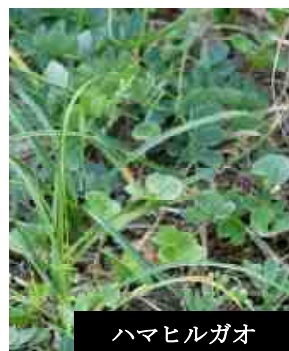


Fig.6 エリアFで撮影



Fig.7 エリアGで撮影



Fig.8 日和山南側で撮影

調査日時：2024年10月23日（水）10:30～12:00、天気：くもり

前回の調査から3週間後の調査となった。定点観測では、緑色だったハママツナが一面茶色になっていた (Fig. 1)。エリアAのヨシは、前回とほとんど変わらず白い穂が目立っていた (Fig. 2)。エリアBのハママツナは、茶色くなり始めていた (Fig. 3)。エリアC～Dでは、ハマニガナの花が数個体見られた来月には見られなくなるかもしれない (Fig. 4)。エリアFでは、ウンランの花を見ることができた。ただ前回よりも花の数が減っていた (Fig. 5)。また、エリアFではハマヒルガオやハマエンドウの葉が数多く見られる。この時期でもまだ青々としている (Fig. 6)。エリアGの汀線沿いに群生しているオカヒジキも茶色くなり始めた (Fig. 7)。日和山南側のテリハノイバラの葉は、減ることなく多数確認することができた (Fig. 8)。このままテリハノイバラが定着できるか注視したい。

(宮崎佳彦)